

国立大学法人鳥取大学入札監視委員会定例会議議事概要

開催日及び場所	令和元年8月1日(木) 13:55～15:55 鳥取大学医学部アレスコ棟2号館2階 第一会議室 (米子キャンパス)	
委員	委員長 玉井 孝幸(高等専門学校教授) 委員 山上 恵吾(銀行常務執行役員) 委員 山根 朋洋(公認会計士・税理士)	
審議対象期間	平成30年4月1日～平成31年3月31日	
抽出案件(合計)	5件	(備考) 今回の審議対象期間においては、再苦情の申立て及び同審議依頼はなし。
工事(小計)	5件	
一般競争 (政府調達協定対象工事)	0件	
一般競争 (上記工事を除く)	3件	
工事希望型競争	0件	
通常指名競争	0件	
随意契約	2件	
設計・コンサルティング業務	0件	
委員からの意見・質問、それに対する回答等	意見・質問	回答
	別紙のとおり	別紙のとおり
委員会による意見の具申又は勧告の内容	なし	

別 紙

議題. 建設工事及び設計・コンサルティング業務における抽出案件の審議について

(委員長より、事前配布した審議案件(案)について、委員より特段意見がなかったため、資料イのとおりとする旨の説明の後、審議を開始した。)

(1) (医病) 基幹・環境整備(受変電設備更新) 工事

・競争参加資格等審査委員会を11月29日に行いその後、総合評価審査委員会を12月4日に行っている事で間違いないか?

・入札説明書を交付した業者は5者だが応札した業者は1者で間違いないか?

・参加資格条件のA等級は、厳しくなかったか?

・総合評価で「欠格」はなかったか?

・年末に発注しているが、1者応札の理由が技術者不足となっている。別の時期に発注できなかったのか。翌年度の当初に発注できないのか?

・一般競争入札であるので、できる限り2者以上の競争入札を行えるよう、工期及び参加条件を整えることが望ましい。

・総合評価の施工上配慮すべき事項等の評価が低いのはなぜか?

(2) (医) 総合教育棟1階解剖実習室換気

・競争参加資格等審査を行った後、総合評価を行っている。

・そのとおりです。

・予定価格により参加可能な条件を設定しており、特段厳しくはない。

・欠格事項はありませんでした。

・補助金を財源とする工事となっているので、予算措置を開始してから設計を経て発注するこのような時期になってしまう。設備機器の作成を含めた工事であり、早期発注し工期を確保している。

・検討します。

・今回は高評価できる提案の提出がなかった。

<p>設備改修工事</p> <ul style="list-style-type: none"> ・随契ではなく再公告したのはなぜか？ ・予定価格 1 千万円を下回ると、契約方式が違いますか？ ・応札者を増やすためにどんな努力をしたのか？ ・技術者不足の対応として、工事の一括発注はできないのか。 ・落札率が 99%以上ですが、どのように考えていますか？ ・。 <p>(3) (医病) 病棟浴室 その他改修工事</p> <ul style="list-style-type: none"> ・再々公告を行っているが、参加資格条件をどのように変更したのか？ ・過去の工事の状況から情報収集を行ってはどうか？地域の状況を考えていかなければ 	<ul style="list-style-type: none"> ・本学では、公告して応札者がいない場合、再公告しております。更に再公告して応札者・落札者がいない場合、随意契約としております。 ・予定価格 500 万円以上の場合、一般競争としています。 ・再公告で、図面変更しダクトの更新範囲を縮小するとともに、応札可能な業者に声かけを行った。 ・小工事をまとめると工期が長くなり、諸経費が過大となる恐れがあり難しい。兼任については、「現場代理人の常駐義務の緩和等について」平成 31 年 4 月より条件を緩和し、鳥取大学 HP の「契約に関する基準等」に文書を掲載するとともに、入札説明書に「他の工事との現場代理人等の兼務について」を記載して周知している。 ・業者積算の直接工事費の割合が多く、諸経費率が低かったので、結果落札率が 99%以上になった。 ・ ・ B・C 等級で当初公告を行い、A 等級を追加して再公告を行ったが、応札がなかったので、工事实績において求める施工面積を外して再々公告を行った。 ・検討します。技術者の工事实績については、平成 26 年度に、それまで過去 10 年だ
---	---

<p>ば技術者の高齢化により、今後ますます入札が難しくなる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加資格条件を緩和しての落札であったとのことだが、実際の工事について問題はなかったか？ <p>(4) (医病) 病棟浴室その他改修電気設備工事</p> <ul style="list-style-type: none"> ・応札者は何者だったか？ ・本電気設備工事の決定後、建築工事が契約され工期が違っているが、変更を行ったのか？ ・理由書の「事後的な調査・分析及び改善策」に「ナースコール設備・火災報知設備に差異がみられた」とあるが、ナースコール設備の予定価格積算メーカーと業者積算のメーカーは違っていたのか？ ・入札後の見積合せで入札金額と見積り金額の差が 400 万円あるが、どうしてそこまで下がったのか？ ・建築と電気設備工事の参加資格条件の相違は何か？ <p>(5) (蒜山) 林道災害復旧工事</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予定価格の積算はどのようにしたのか？ ・事前に調査・設計は発注しなかったのか？ 	<p>った工事实績を過去 15 年とし条件を緩和している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・苦情等特に無く、7 月に竣工し工事成績は 90 点近い優良であった。 ・2 者でした。 ・電気工事の変更契約を行った。 ・同じでした。同じメーカーでも本学に対する見積もりと価格の違う見積もりを出す場合があります。 ・入札後、特に価格に差異のある機器について協議を行い、見積合わせに臨んだ結果見積もりの金額となった。 ・予定価格の多寡により資格条件が違ってくる。 ・複数の専門業者に現地に赴いてもらい、参考見積もりを取得し積算を行っている。 ・災害復旧であり、緊急を要するため施設環境部の技術職員が専門業者と共に現地に入り調査・設計を行った。
---	--

<ul style="list-style-type: none">・他の工事と同様に、設計・施工とならないのか？・地元業者は見積合わせに参加しなかったのか？ <p>報告.再苦情の申立て状況について (事務局より説明)</p> <ul style="list-style-type: none">・特になし。	<ul style="list-style-type: none">・本工事は災害復旧であり、時間的余裕がない所であるが、今後検討する。・これまでの実績を踏まえ、施工できる業者を選定した。
--	---